

## コロナ禍で変わる社会と教育～オンラインスキルが求められる社会の中で～

田中 博(本学教職研究科准教授 国際教育・科学教育)

コロナ禍の影響で、多くの学校がオンライン授業を経験しました。「オンラインでは教えたことが上手く伝わらない」「オンラインでは生徒同士の心のつながりが持たない」「オンラインでは生徒にしっかり考えさせることができない」、様々な否定的な意見があります。ましてや、「主体的、対話的で深い学び」を実現するなどできないと思われがちです。もちろん、対面の方が良いことは山ほどあるでしょう。できることならオンラインなど使わずに、対面でやりたいというのが正直な思いでしょう。しかし、それでオンライン授業を避けてしまって良いのでしょうか？

コロナ禍がきっかけではありましたが、社会が大きく変わろうとしています。リモートワークという働き方が取り入れられるようになりました。完全リモートワークの会社も出てきています。家で仕事をする時代、あるいは、大都会から遠く離れた自然に囲まれた中で仕事ができる時代になろうとしています。もちろん職種にもよりますが。そのような働き方の場合に、社内での意思疎通は、もちろんオンラインを活用して行われます。新しい社会に向かう子供たちに、オンラインでも対面と同じように自分の意見をしっかりと伝えて、十分な意思疎通ができる能力をつける必要が生じてきたわけです。

コロナ禍でそのことを明確に意識したのですが、実は、それ以前にもこの問題は忍び寄っていました。海外の高校生たちの中には、オンライン上で意思疎通する能力を早くから持っていた者が多くいました。オンライン上でファイルを共有しながら議論をまとめていくような手法に慣れている生徒が多くいる中で、日本の生徒が面食らう場面を何度か目にしました。日本ではICT教育が広く叫ばれているにも関わらず、なかなか学校教育に浸透できない状況が続いていたと言えます。今一度、子供たちにつけなければならない能力が何なのかをしっかりと考え、新しい教育へ向かわなければなりません。

オンライン会議等で自分の意見を伝えようと思うと、モニターの向こうでの議論の内容をしっかりと把握し、ここだというところで、いくつかのキーを押して会話に割り込む、そのような判断力と手際良い操作が伴わなければなりません。また、表情やジェスチャーが制限される分、明瞭で正確な言葉遣い、論理的な文脈が対面以上に要求されます。また、それらを補完する技術として、写真や動画、スライド資料等を効果的に利用する技術も必要となります。これらの力を身につけることも、学校教育に求められる社会となってきたわけです。

その際に、2つのことを頭に入れておく必要があると考えます。一つは、「オンラインだから仕方ない」とあきらめずに、どうすればできるのかという発想で考えることが重要です。ICTは私達が考えている以上に柔軟に対応してくれます。もちろん、オンラインでも「主体的、対話的で深い学び」を追求しなければなりません。オンラインであればなおさら主体的に取り組む態度は重要と言えます。それを普通の授業で、児童・生徒へ迫れているのか振り返る必要があります。対話的な授業をオンラインで実現するためには、ICTの技術を活用することでよりスムーズになるかもしれません。より良いアプリケーションを探して、利用することで前進させられる可能性は高いです。また、グループワークで上手く司会をして議論を回したりする力も重要です。そのような能力を付けていくことがオンラインで教育を受けるために重要なスキルと言えます。

もう一つは、オンラインだからこそできることを活用することです。特に、動画の活用は今後の教育や社会の中でより注目される技術になるだろうと予想できます。一人一人の教師に、より質の高い動画、より教育効果の高い動画を作成する技術が求められています。

社会が変われば教育も変わります。オンライン授業は、それを再認識させてくれました。この機に、素晴らしい教育改革を目指さなければならないと考えます。